

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872600051		
法人名	(有)福祉未来計画		
事業所名	グループホーム榎子木		
所在地	那珂市戸崎508番地3		
自己評価作成日	平成25年7月3日	評価結果市町村受理日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jigyoCd=0872600051-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jigyoCd=0872600051-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成25年8月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中のホームで明るい笑顔の職員と四季折々の行事を通じ季節を感じながら家族や地域の方々と交流できます。中庭で日光浴をしながらお茶や昼食を楽しむこともできます。スプリングラーや消防署への直通通報装置も完備し災害にも備えています。近くの協力医院の往診や訪問歯科、訪問マッサージを受け入れたりして健康管理にも心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の代表の自宅を改築・増築して作られた1ユニットのホームである。手入れの行き届いた広い庭や、大きな桜の木等の樹木に囲まれ、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。常に開かれている門は地域の方々や友人・知人等が訪れやすい開放感のあるホームであると共に地域消防団が見回りに来る等、地域資源の一つとして地域から大切にされているホームでもある。  
法人の代表・管理者・職員はお互いの意見を尊重しており、日々のケアにおいては個々の判断を大切にしながらも、常に全職員で話し合うことを目指して夜の職員会議開催などの工夫をしている。利用者は広い庭で弁当をひろげピクニック気分を楽しんだり、職員に元気な頃の話をしたり、家族と一緒に外出したりしている。それぞれが个性的な居室で寛ぎ、利用者・職員と一緒に家庭的な雰囲気をつくり、笑顔のある落ち着いた生活をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	榎子木のころ「友愛」 地域や家族との結びつきを重視した明るい家庭的な雰囲気ホームを目指して職員全体で事業計画を作成するほか、毎日の申し送りや日常のケアを通して理念の共有を図っている。	理念について全職員で話し合いをする機会を設け、「友愛」を you and I と捉え1対1の関係作りを大切に、お互いに支えあいながら地域の中で生活して行こうと確認し合った。この話し合いで以前から続いていた「1対1の付き合い」の大切さも再確認できた。また事業計画作成時には理念を再確認し、全職員で共有を図って理念に基づいたケアが出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは日常の挨拶をかわしたり行事などを通じて交流を行なっている。草刈などの地域活動にも参加している。	地域の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方々を招待したりして、親しい関係作りが進められている。散歩の途中で知り合った方がホームで三味線の演奏会を開催してくれたり、自治会福祉部や婦人会の方々が踊り・コーラス等を披露してくれる等日頃から親しく交流している。更にホームを地域消防団の見回りコースに入れる等社会資源の一つとして大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から要望があれば、できる範囲で協力し貢献していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は6回開催した。今年も2か月に1回の割合で開催したい。会議はホームでの取り組みなどの報告を中心に話し合いを行ない、会議での意見をサービス向上の活かしている。	家族の代表・民生委員・自治会福祉担当者・市の担当者等の出席を得て2ヶ月に1回開催している。ホームの活動状況を報告しながら、様々な意見・要望を頂いている。会議の結果は職員会議と議事録で報告し、意見・要望等を検討して運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり利用者に関する事など相談事にもってらったりしている。	運営推進会議でホームの日頃の活動状況等を積極的に伝えると共に、市への提出書類なども出来るだけ役所に出向き、担当者に直接手渡して言葉を交わす等、何時でも協力が得られるよう取り組んでいる。地域外の人の利用に関する話し合い等も出来る関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する研修を受け、玄関の施錠等も含め日常でも言葉による拘束にならないよう注意しながら取り組んでいる。	管理者・職員共に身体拘束による弊害も含めて身体拘束についての正しい知識を身につけており、常に拘束の無いケアを実践している。門・玄関の施錠をしていないことでホーム全体の雰囲気が伸びやかで、何時でも広い庭の散策が出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等において高齢者虐待について学ぶ機会を持ち職員の意識向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修等において権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を考え、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネージャー同席して十分な説明を行ない、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望を出せるよう職員の方から声かけなどを行なっている。行事に参加して頂いた際に家族同士の交流の場を設け、その中で出た意見を運営に反映させている。	花見・敬老会・外食会と年3回の家族会を開催して家族と話し合いの機会を設け、忌憚の無い意見や要望を出して頂いている。家族からの要望で、玄関入り口の段差を色つきにして危険防止を図ったり、家族会・敬老会の外食時には参加費を徴収して気兼ねなく多くの家族が参加できるようにする等利用者・家族の意見を大切にしたり取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行ない職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	法人の代表や管理者とは気軽に何でも話しが出来る信頼関係が築かれており、提案等がある場合にはその都度話し合いをしている。また職員会議を夜開催することで、全職員が参加できるように工夫している。職員の提案で献立の食材が変更になった際は食材納入業者と職員が直接話し合いが出来るようにしている。内部研修や外部研修も職員の要望にそえるよう計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の介護度に合わせて勤務シフトに余裕が出るように配慮する努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のほか、外部の研修会にも業務に支障がない範囲で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等にできるだけ参加できるようにしている。ネットワーク作りや相互訪問等の活動などは今後、取り組んでいきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族や担当ケアマネージャー等と連絡し実調を行ない、本人が不安な事や要望等を伺い、本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から不安な事や要望などを話し合いを行ない信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ柔軟な支援を行ない、場合によっては他のサービスを進めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のこれまでの生活を尊重した働きかけをするようにしている。その中で職員が利用者から教えて頂くこともあり、支え合う関係はできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は気軽に話せる関係が築けている。その関わりの中で共に利用者を支え合う関係はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親族等の面会も自由にでき気軽に来ていただいている。日常会話の中でも慣れ親しんだ場所や人のことを意識的に話題にするようにしている。	訪問しやすい環境づくりを心がけ、地元の友人・知人が気兼ねなく面会に訪れることができるようにし、大切にしてきたこれまでの関係が継続されるように努めている。元気な頃の仕事の話や趣味の話をして懐かしんだり、大切な思いを共有したりしている。また昔懐かしい音楽を聴く事で思い出を甦らせ、次々とクエストを引き出す等、精神的な活性化を促す支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切にしながら利用者同士が支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族にも気軽に訪れることができるような雰囲気づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者に関する情報を共有し利用者の意向を尊重できるよう配慮している。利用者が自身の希望を伝えられない場合は家族を含め話し合い、その利用者に合ったサービスの提供に努めている。	家族からの聞き取りや普段の話の中からそれとなく聴いた事、日頃の様子などを申し送りノートに記録して、それぞれの思いや希望の把握に努めている。言葉での表現が困難な利用者の中には、生活リズムパターンシートや日誌・申し送りノート等を基に、職員間で本人の思いを大切にしながら話し合いを重ね把握に努めている。席替えにより利用者同士の関係改善が図られ落ち着きを取り戻した利用者の例なども見られた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の話を聞くなど、これまでの暮らしをできるだけ把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「生活リズムパターン表」などを活用して記録をできるだけ残し現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族及び必要な関係者で相談して立案している。	生活リズムパターンシート等で把握した本人の思いや希望を踏まえた上で、家族の希望なども取り入れた丁寧な介護計画が作成されている。全職員で行われるカンファレンス等をもとに計画作成担当者によるモニタリングも定期的の実施されており、利用者の状況に合わせた定期的な見直しや必要に応じた随時の見直しが行われている。	介護計画による提供サービスの精査を全職員で検討すると共に、日々のケース記録が介護計画のモニタリング・見直しに反映できるような記録の方法についての検討も期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活リズムパターンシートや日誌・記録等を活用して申し送り等を行ない、職員間で情報を共有しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単独事業につき、現在サービスの多様化には取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしを支えている地域資源を把握し心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し納得の得られた「かかりつけ医」の受診を支援している。また提携している内科医の往診や訪問歯科の受診も受けている。	家族の協力を得ながら本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。ホームへは協力医療機関の医師が月1回往診に訪れ利用者の健康状態を把握しており、利用者の状態に応じた適切な医療が何時でも受けられるようにしている。かかりつけ医・専門医・協力医療機関からは受診の都度診療記録を頂き、受診記録として保存して本人・家族・職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回出勤の看護・介護兼務職員を採用し、内科医の往診により健康管理を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談に努め、入院・早期退院に備えて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期についてホームができること・対応を家族と話し合っている。利用者が日々をより良く生活できるようにかかりつけ医や関係者と相談・連携して今後の変化に備えている。	看取りは基本的にはしない方針である。協力病院の医師は24時間何時でも対応できるような体制を整え、重度化した場合でも安心して過ごせる取り組みを行っている。重度化に伴う利用終了についての話し合いは、往診時に医師から本人・家族へ状態・病状等の説明をして頂き、入院や特別養護老人ホームへの入所等を含めた支援を実施して、納得して次の生活が出来るまで安心して過ごせるような取り組みをしている。	看取りに関して契約時に十分な説明と利用者の納得が得られるように、退所時の見極め方法等を文書化した「同意書」などの作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応ができるように職員会議等で研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を実施し利用者の避難方法を職員は身につけている。災害時の避難場所にも隣接している。	消防署と協力しながら夜間想定も含めた避難訓練を実施している。地元消防団は1ヶ月に2回見回りに訪れ、ホームの中の安全についても確認している。火災を想定した避難口を整備したり、地震等の災害時の備えとして井戸水使用の確認や発電機、たるまストーブの購入、食料の備蓄など災害対策の充実を図っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重や言葉かけには十分注意した対応をしている。	職員の言葉かけは親しみを感じさせながらも丁寧で、ほど良い距離感を保ちながら接していた。二人がかりでの移動介助の場合でも、大げさにならず自然な声かけと共に行われていた。薬を開封するためのハサミを食卓に用意する等、日頃から利用者の有する能力に信頼を置いた関わりをしていることがうかがえる気持ちの良い対応が見られた。利用者のプライバシーが他の利用者に漏れることがないよう、職員同士の話し合いの場合にも利用者の存在を意識しながら行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の思いや希望を表せるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を伺いながら、その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や好みを把握して食事を楽しく頂けるように対応している。テーブル拭き等を利用者と職員と一緒にこなしている。	配達された食材はレンジどおりではなく利用者の好みに合わせた味付けや刻み方をしている。器や盛り付けが見た目にも美しく、食事の利用者からは「本当に何時でもおいしいよ」と言った言葉も聞かれ、食事を心から楽しんでいる様子が見られた。食事の進まない利用者には代替食として好物の刺身や高カロリーのエンシュアを提供したりしている。また天気の良い日には重箱に弁当をつめて庭でピクニック気分でお茶を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べた量や水分量を把握し、身体の状態や習慣の応じて栄養・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい等口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的なトイレの声かけや誘導を行ないリハビリパンツ等に頼らない努力をしている。	現在は排泄自立の利用者が多く、動きを注意深く見守っているが、支援が必要な場合にはそれぞれの排泄パターンに応じて、トイレとは関係の無い言葉かけで誘導している。失敗が多く見られるようになった場合には声かけを多くする等職員間で話し合いをしながら対応していくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くしたり、かかりつけ医と相談して下剤を処方してもらったり、一人ひとりに合った方法で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前中に1日おきだが利用者の希望があれば、その都度対応して入浴を楽しんで頂けるようにしている。	利用開始時には午後入浴を希望する利用者もいたが、希望にそった対応を重ねるうちに、全員が午前入浴にも馴染んで入浴を楽しめるようになった。入浴を拒否する利用者へは特定の職員の対応を試みたり、透析を行う利用者には清拭をしたりときめ細かな対応でそれぞれが清潔に過ごせるようにしている。また柚子湯、菖蒲湯を楽しんだり、入浴の順番や温度を調節して一人ひとりが入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して安心して気持ちよく休息や睡眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり健康状態や症状の変化を確認しながら服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の気晴らしになるよう気分転換の散歩を行ったり張り合いや楽しみのある生活を送れるような活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事のほか、買い物や散歩等を取り入れている。	広く丁寧に整備された公園のような庭では、常に散歩や外気浴をしている。天気の良い日には庭でピクニック気分を楽しんだり、お茶を楽しんだりしている。月1回は買い物外出を計画し、行事としての遠出なども利用者の気分転換の良い機会となっている。また家族の協力で外食等外に出る利用者もありそれぞれが希望にそった外出が出来るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物等でお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	豊かな自然の中にあるホームのため常に季節を感じる事ができる。また、共用の空間には花を飾ったり居心地良く過ごせるよう工夫している。	トイレ・浴室は清潔で利用者の機能低下にも対応できるような配慮がしてある。高い天井や広い窓は開放感があり、玄関のスロープや広いウッドデッキ、廊下にある休憩のできるスペース等利用者がゆったりと過ごせるような心配りが随所に見られた。居間のテーブルも4グループで囲めるようにしてあり、それぞれが気分良く過ごせるよう工夫してあった。また見やすい時計・カレンダー、季節の植物等を置いて時間的な混乱や季節感を失わないような生活への配慮が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間では独りになるよりも気の合った利用者同士で楽しく過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい馴染みの品々や使い慣れた寝具・タンス等を持参してもらって頂いている。	仏壇や位牌、使い慣れた家具等に囲まれて自宅に居るような雰囲気のある部屋や、家族の写真や若いときから大切にしていたと思われる化粧ケース・針箱等を身近に置いている部屋等、それぞれが安心して暮らせるような居室作りがしてあった。また椅子・ソファ等が置かれたり、居室の整理具合等で家族との交流の深さなどもうかがえる等、利用者それぞれが家族・職員に見守られながら个性的に暮らしている雰囲気があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせ、できるだけ自立した生活が送れるよう安全な環境づくりを工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケース記録が一日ごとに全利用者の様子が書かれており、介護計画を見直す時に一人一人の利用者の様子が把握しにくい。	介護計画を見直す時に一人一人の利用者の様子が把握できるような記録方法を検討する。	全職員と検討し、今までの「生活リズムパターンシート」を活かした各利用者ごとのケース記録を作成する。	1ヶ月
2	33	看取りや利用者が重度化した場合や退所時の見極め方法等を入所時や状態が変化した場合に説明していたが、その内容を文書化していなかった。	利用者・家族への説明した内容を文書化して保存しておく。	説明した内容を文書化し保存しておく「同意書」のような書式を作成する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。